

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成23年 5月31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795200027		
法人名	社会福祉法人 なみはや		
事業所名	グループホーム桜ノ宮なごみ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市都島区中野町1-12-11 アロンディール3F		
自己評価作成日	平成23年4月1日	評価結果市町村受理日	平成23年6月30日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	tp://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成23年5月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

変化がなく単調な日々になりがちな毎日を脱却して、入居者様一人一人が季節感を感じ刺激を受けながら、お暮らしになる事ができるように施設内の飾りつけを工夫し、色々な人を招いて楽しんで頂いている。
外出は季節を感じて、人とのふれあいの中から社会への復帰を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム桜ノ宮なごみ」は、JR環状線桜ノ宮駅から徒歩5分のマンションの3階フロアにあり、二つのユニットからなっている。事業所に隣接して桜宮神社、道路を隔て大川の河川敷公園や野球場などがあり、落ち着いた環境の中にある。事業所は「入居者様やご家族、職員など全ての人の尊厳を尊重する。」という理念を基に、毎年基本方針やサービス提供方針を作成している。管理者は積極的に町会の寄り合い等に参加し人間関係を深め、地域との連携体制の構築を目指している。2ヶ月毎に開催する運営推進会議では、参加者から積極的な意見が出され、サービスの質の向上に向けた話し合いを行っている。会議の議事録は職員に回覧すると同時に、利用者家族にも送付している。また、利用者一人ひとりの近況や暮らしぶりを記した手紙と「なごみ通信」を毎月家族に届けている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価（フロアA）		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営（フロアA）						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全ての人の尊厳を尊重するという理念に基づき、管理者と職員で会議で話し合い、入居者様、家族様に接している。	管理者は、全ての人の尊厳の尊重を謳った理念を具体化するために、ケア指針15ヶ条を作成し、玄関の入り口とスタッフルームに掲示している。随時職員と話し合う機会を持つとともに、月1回の全体会議でも話し合いその共有化を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員になれる様に、盆踊り等の町内の行事に参加し、町内会の寄り合い等に出席する事に取り組んでいる所です。	町会に加入しており、盆踊りなどの行事に参加して交流を図っている。管理者は積極的に町会の寄り合いに参加し、人間関係を深め、地域の一員としての活動を目指している。8月には事業所での夏祭り開催を予定し、地域との交流を考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、当事業所だけでは出来ていないが、地域の他の施設や団体と共に地域に発信できるように取り組んでいる所です。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内役員、包括職員、ご家族、理事長、職員が出席して2ヶ月に一度開催している。ご家族の意見を取り入れ、現場のサービスに反映させている。	町会役員(3名)、地域包括支援センター職員、利用者家族、法人代表、管理者や職員が参加して2カ月に1回開催している。会議の議事録は職員に回覧するとともに、利用者家族にも送っている。会議では事業所の報告以外に地域包括支援センター職員や利用者家族等から積極的な意見が出され、居室の扉の不具合の改善や地域との関わり、利用者の楽しみ事の企画等、サービスの質の向上に向けての双方向的な話し合いができています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当者と連絡は密に取れているとは言えず、必要に応じて役所に行く事にとどまる。	市の担当者とは挨拶を交わしているが、書類上の相談ごとに終始し、サービスの質の改善に向けて積極的な情報提供や連携を取るには至っていない。	市の担当者と、サービスの質の向上に向けて連携を図っていくことが望まれる。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルを常備し、職員に指導しており、対応を随時実施している。</p>	<p>身体拘束に関しての研修を行っていないが、大阪府の身体拘束ゼロ推進・標準マニュアルを常備している。管理者は①利用者の思いを大切に②身体拘束をしない③プライバシーの保護という三つの項目に関して、常に職員を指導している。1階エレベーターホールの自動ドアは施錠していないが、各ユニットの入り口は暗証番号でロックしている。</p>	<p>利用者の安全を確保しつつ、抑圧感の無い自由な暮らしを支援するために、内部研修の充実と鍵を掛けないケアについて今後の検討を期待する。</p>
7		<p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>認知症介護実践者講習に参加し虐待について学び、他職員にも指導している。順次講習に参加できるよう取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現状、日常生活自立支援事業や成年後見人制度を利用される入居者様はおらず、あんしんサポート等の資料は回覧し、ファイリングしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者様及びその家族様へ説明を行い、理解していただいた上です承して頂いています。不安・疑問を持たれた時は、詳しく説明する様、心がけています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に運営推進会議を設け、入居者様、家族様、地域の方の意見、要望を承り対応させて頂いています。</p>	<p>職員を利用者ごとの担当制にして、家族の訪問時に意見や要望を聴き取っている。面会の少ない家族には、事業所から連絡を取るようになっている。玄関に意見箱を設置している。運営推進会議に於いても意見、要望を出すことができる。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>1回/月全体会議を設け、代表者も参加し、職員の意見や提案に限らず、疑問、不安等様々な事を話し合う機会を設けている。</p>	<p>月1回の全体会議に法人代表、管理者も参加して職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者はフロアリーダーがフロアを管理する方針を目指しており、フロアリーダーとは随時意見交換を行っている。必要時には職員との個別面談も行っている。職員の意見からトイレの照明を自動点灯方式に改善している。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>新職員の採用により、公休の確保と残業も軽減され、夜勤の回数も減少した。介護職員処遇改善交付金申請を行っている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月に一度のフロアミーティングで、緊急時対応の講習会を開いたり、教育用DVDを見て意見交換をしている。外部研修は、認知症実践者研修を始め、受講している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>交流があるグループホームにおもむき、見学、話す機会を設ける。又、当グループホームにも招き関係の構築をして、サービス向上に取り組んでいる。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時に数回に渡り面談を行い、家族様及び、本人様のアセスメントを行い、要望等を確認するように努力している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>出来るだけ家族様の様々な立場から、意見や要望を拝聴できるように対処している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人様、家族様の話を伺い、他職種からの意見も参考にした対応を心がけている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じ、役割を持って頂いている。又、食事を一緒に取ったり、ゆっくりと談話したりして過ごす時間も大切にしている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	旅行やイベントへの参加を家族様へ呼びかけ賛同して頂いている。外泊や外出等も随時して頂いている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当施設へ面会は可能な限り時間制限もなく、自由にして頂いている。その方が行きたい馴染みの場所には、家族様と話し合い、そこへ行けるよう配慮している。	家族の協力を得て、利用者の自宅や墓参りなどに出かけたり、大文字焼き見物や太閤園・帝国ホテル、馴染みの美容室などに出かけている。郵便局員や馴染みのマッサージ師、友人等の訪問がある利用者もいる。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションが難しい状況であるが、スタッフが間に入ることで関わりを持っている。性別や年代なども考慮している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス修了後も必要に応じて相談していただき、他サービス利用の希望時にはこれに関しての情報提供等のフォローをしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の自己決定を尊重しケアに努めている。困難な場合は、今までの生活歴や性格、趣味など家族から情報を得て、できるだけ本人様の立場に立ったケアに努めている。	職員を利用者ごとの担当制にして、その思いや意向の把握に努めている。聴きとった情報は申し送りファイルに記録し、職員間で情報の共有化を図っている。職業履歴をレクリエーションに反映させたり、編み物や縫い物などの特技を把握してケアの中に生かしている。意思の疎通が困難な方には日頃のふれあいの中から思いを汲み取ったり、家族等から情報を得るようにしている。	
----	--	---	--	--

24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>本人様及び家族様には十分な聞き取りを行い把握に努めている。必要に応じて、在宅時のサービス関係者や介護支援専門員等に情報提供を依頼する。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々本人様の状態を把握し、介護日誌及びグループホーム日誌等に記録し、全員が確認し、申し送りを確実にしている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>各フロアでミーティングを行い、必要に応じて家族様、関係者とも話し合い、計画作成するように努力している。</p>	<p>介護計画作成時には、介護計画作成者、管理者、フロアリーダー、職員が参加してケアカンファレンスを開催している。利用者、家族等に参加を呼びかけている。家族などの面会に合わせてケアカンファレンスを持つこともある。必要に応じて、医師、看護師等が参加している。3ヶ月に1回モニタリングと評価を行い、随時及び6ヶ月ごとに計画の見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の介護記録を活用し、介護経過に残し、定期的にモニタリングを行い計画の見直しをしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人様、家族様のニーズにできる限り対応している。例えば入院時の付き添い等。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域資源の把握に努めているが、十分な活動には至っていない。地域のボランティア団体を招き、施設を地域の憩いの場となるよう努めている。</p>		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	当事業所の連携医療機関についての説明 をし、今までの本人様のかかりつけ医と の選択をして頂き本人様、家族様がどの 様に医療を受けたいのかも、聞き取りを 随時行っている。	ほとんどの利用者は、協力医療機関の 医師を主治医としている。週1回の往 診時には、予め聞き取っている家族の 希望等を医師に伝えている。利用者や 家族が、希望すれば他の医療機関で受 診できるように支援している。受診に は職員が同行支援し、受診の結果は家 族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるよう支援し ている	提携医療機関の在宅看護師と日常の状態 について、3日/週訪問、電話連絡にて指 示を仰いでおり、訪看申し送りにて記録 している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	必要時には入院時の24時間付き添い等 安心して治療できるよう対応している。 入院時には看護サマリー、介護サマリー を作り関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	看護師、職員を交え話し合いの場を設け て、随時見直し、再確認をしている。	サービス利用開始時に「緊急時の延命 措置に関する取り決め」について、利 用者・家族等と話し合い同意を得てい る。事業所として看取りの指針を作成 しており、終末期には医師から家族に 連絡し、事業所を含め家族等と話し あっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行い、実践力を身に付けている	応急手当についてのマニュアル作成して いる。今後、施設内研修を行い、公的講 習会にも参加を予定している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築 いている	昨年、当施設の事情により訓練を一度し か行っておらず、本年は新しい防火管 理者を立て、2回/年の消防訓練を実施し ます。	平成22年度は管理者や職員の入れ替わり などがあり、防災訓練は年1回の実 施となっている。防災担当者を決め5 月に防火管理者講習を受けた後で、年 2回の防災訓練を実施する予定であ る。居室等にはスプリンクラーを設置 している。災害時の地域との協力体制 は構築できていない。災害に備えて飲 料水と米を備蓄している。	年2回の実践的な防災・避難訓練の実施 及び地域との協力体制の構築ができる よう運営推進会議を活かした取り組み を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>プライバシー保護のマニュアルを完備し、各職員に日々丁寧な対応をするように指導している。</p>	<p>管理者は、誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応をしないように常に注意している。事業所が掲げているチームケアのすすめにも、「利用者の尊敬や敬意の念を持って仕事に挑む」と明記している。日々の介護に必要な個人記録等はスタッフルームの第三者の目に触れない棚に保管している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>まず、聴く事を大切にして職員の考えではなく、利用者様に決定して頂いている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活リズムを基本としてその方に添ったペースで職員が介助を進める。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>定期的に理容、美容訪問していただき、本人様の意向を確認しながら支援させて頂いています。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>可能な利用者には、食事の準備や片付けを手伝って頂く。</p>	<p>食材は配食業者から購入し、職員が調理している。利用者は食卓の準備や調理の下ごしらえ、お盆を拭く、お絞りを巻く、下膳などできることを手伝っている。月1回、ホットプレートで餃子やお好み焼きを焼いたり、外注を含め外食なども取り入れて食事形態の変化を楽しめるようにしている。職員は利用者と同じ食事をしながら食事を楽しむ支援を行っている。</p>	

41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>全体としては食材業者に委託し、栄養バランス、カロリー管理を行っている。又、栄養指導のもと、個々の状態に応じて随時対応しています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを実施している。必要に応じて訪問歯科による衛生管理をして頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>尿意、便意のある方が少なく、排泄パターンにあわせたトイレ誘導をしている。</p>	<p>介護記録に排泄状況を記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導することで、できるだけトイレで気持ちよく排泄できるように支援している。個々の状態により、布パンツ、リハビリパンツ、オムツを使い分けている。夜間オムツを使用している利用者にも、日中はリハビリパンツ等を使用し、トイレ誘導している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事に関しては食材業者に委託しており、予防に心がけるとともに、おやつ等により排便を促す食材を利用している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>希望を言える方が少なく、曜日を決めさせて頂いていますが、体調、気分などで随時、変更しています。</p>	<p>入浴は基本的には週2回、午前10時から午後3時半の間の利用者の希望する時間に支援している。浴槽のお湯は1人ずつ入れ替え気持ちよく入浴できるようにしている。1人で入浴を希望する利用者にも声掛けと見守りで支援している。入浴を拒否する利用者には、対応する職員を変えたり時間や日にちを変える等工夫している。職員の勤務体制により、異性介助の時もある。</p>	

46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	個人個人の生活リズムを尊重している。		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	薬品については変更時あるいは、疑問等がある場合は、随時薬剤師、看護師に確認している。又、副作用、用法、用量についても指導・指示を仰いでいる。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	いろいろな事に参加するときに、どうしても受け身になる事が多いが、少しでも楽しんで頂けるように支援している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	希望を言える方が少なく、近くの公園や神社に行く事が多くなる。	日常的な外出支援として、天気の良い日に週2回ほど近くの公園や神社などに出かけている。利用者の思いを大切に喫茶店、美容室などに出かける支援も行っている。近隣には商店やスーパーマーケットなどが少なく家族等と話し合い買い物などの外出をお願いすることもある。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	お金をご自身で管理されている方はおられません、必要に応じて施設より立て替え、毎月の請求にのせています。		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	入居者様の中にはご自宅に電話を希望される方もおり、支援しています。		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>お正月、ひな祭り、クリスマス等季節感を取り入れた飾りつけをしています。又、冬場は乾燥を防ぐ為、加湿器で調整をとり、夏場は冷風が巡回するように扇風機と併用して温度調節をしている。</p>	<p>1階エレベーターホールや事業所のある3階の玄関に観葉植物を置き、安らぎのある空間を作っている。リビング兼食堂は、木目調の床にソファ、テーブル、テレビ、本棚などを配置している。壁には絵画や季節感のある折り紙細工、行事の記念写真などを飾り、居心地の良い空間作りに努めている。自転車こぎ（エクササイズバイク）も利用者の楽しみとなっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>席は施設側で入居者様の自立度や他入居者様との新密度により決められている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に、本人様の馴染みの物等についてはご持参して頂き、入居後の随時ご相談しながら、本人様の意向に添えるように対応させて頂いています。</p>	<p>居室の床は基本的にはフローリングとなっているが、利用者の希望により畳にも対応している。天窗のある居室はととも明るく清潔で、利用者はテレビ、目覚まし時計、鏡台、帽子、家族の写真、冷蔵庫、筆筒、ぬいぐるみ、人形、枕、毛布など使い慣れたものを持ち込み安心して暮らせるように配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>移動の動線について注意して、模様替え、家具の配置等に配慮しています。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価（フロアB）		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営（フロアB）						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全ての人の尊厳を尊重するという理念に基づき、管理者と職員で会議で話し合い、入居者様、家族様に接している。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員になれる様に、盆踊り等の町内の行事に参加し、町内会の寄り合い等に出席する事に取り組んでいる所です。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、当事業所だけでは出来ていないが、地域の他の施設や団体と共に地域に発信できるように取り組んでいる所です。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内役員、包括職員、ご家族、理事長、職員が出席して2ヶ月に一度開催している。ご家族の意見を取り入れ、現場のサービスに反映させている。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者と連絡は密に取り入れているとは言えず、必要に応じて役所に行く事にとどまる。			

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルを常備し、職員に指導しており、対応を随時実施している。</p>		
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>認知症介護実践者講習に参加し虐待について学び、他職員にも指導している。順次講習に参加できるよう取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現状、日常生活自立支援事業や成年後見人制度を利用される入居者様はならず、あんしんサポート等の資料は回覧し、ファイリングしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者様及びその家族様へ説明を行い、理解していただいた上で了承して頂いています。不安・疑問を持たれた時は、詳しく説明する様、心がけています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に運営推進会議を設け、入居者様、家族様、地域の方の意見、要望を承り対応させて頂いています。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>1回/月全体会議を設け、代表者も参加し、職員の意見や提案に限らず、疑問、不安等様々な事を話し合う機会を設けている。</p>		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>新職員の採用により、公休の確保と残業も軽減され、夜勤の回数も減少した。介護職員処遇改善交付金申請を行っている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月に一度のフロアミーティングで、緊急時対応の講習会を開いたり、教育用DVDを見て意見交換をしている。外部研修は、認知症実践者研修を始め、受講している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>交流があるグループホームにおもむき、見学、話す機会を設ける。又、当グループホームにも招き関係の構築をして、サービス向上に取り組んでいる。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時に数回に渡り面談を行い、家族様及び、本人様のアセスメントを行い、要望等を確認するように努力している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>出来るだけ家族様の様々な立場から、意見や要望を拝聴できるように対処している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人様、家族様の話を伺い、他職種からの意見も参考にした対応を心がけている。</p>		

18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じ、役割を持って頂いている。又、食事を一緒に取ったり、ゆっくりと談話したりして過ごす時間も大切にしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	旅行やイベントへの参加を家族様へ呼びかけ賛同して頂いている。外泊や外出等も随時して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当施設へ面会は可能な限り時間制限もなく、自由にして頂いている。その方が行きたい馴染みの場所には、家族様と話し合い、そこへ行けるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は出来る限りフロアーで過ごしていただき、スタッフが利用者様間の関係作りの架け橋になるよう心がけている。又、レクリエーションに可能な限り参加して頂く事で楽しい時間を共有し関係作りをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス修了後も必要に応じて相談していただき、他サービス利用の希望時にはこれに関しての情報提供等のフォローをしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の自己決定を尊重しケアに努めている。困難な場合は、今までの生活歴や性格、趣味など家族から情報を得て、できるだけ本人様の立場に立ったケアに努めている。		
----	---	---	---	--	--

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人様及び家族様には十分な聞き取りを行い把握に努めている。必要に応じて、在宅時のサービス関係者や介護支援専門員等に情報提供を依頼する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々本人様の状態を把握し、介護日誌及びグループホーム日誌等に記録し、全員が確認し、申し送りを確実にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各フロアでミーティングを行い、必要に応じて家族様、関係者とも話し合い、計画作成するように努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を活用し、介護経過に残し、定期的にモニタリングを行い計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様のニーズを個別に対応している。例えば、外食や買い物。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めているが、十分な活動には至っていない。地域のボランティア団体を招き、施設を地域の憩いの場となるよう努めている。		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>当事業所の連携医療機関についての説明 をし、今までの本人様のかかりつけ医と の選択をして頂き本人様、家族様がどの 様に医療を受けたいのかも、聞き取りを 随時行っている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるよう支援し ている</p>	<p>提携医療機関の在宅看護師と日常の状態 について、3日/週訪問、電話連絡にて指 示を仰いでおり、訪看申し送りにて記録 している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>必要時には入院時の24時間付き添い等 安心して治療できるよう対応している。 入院時には看護サマリー、介護サマリー を作り関係作りに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看護師、職員を交え話し合いの場を設け て、随時見直し、再確認をしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当についてのマニュアル作成して いる。今後、施設内研修を行い、公的講 習会にも参加を予定している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築 いている</p>	<p>昨年は、当施設の事情により訓練を一度 しか行っておらず、本年は新しい防火管 理者を立て、2回/年の消防訓練を実施し ます。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>プライバシー保護のマニュアルを完備し、各職員に日々丁寧な対応をするように指導している。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>まず、聴く事を大切にして職員の考えではなく、利用者様に決定して頂いている。</p>	/	/
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活リズムについても可能な限り、その人らしい利用者様の望まれるペースで生活を送っていただけるよう努めている。</p>	/	/
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>定期的に理容、美容訪問していただき、本人様の意向を確認しながら支援させて頂いています。</p>	/	/
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>可能な利用者には、食事の準備や片付けを手伝って頂く。</p>		

41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>全体としては食材業者に委託し、栄養バランス、カロリー管理を行っている。又、栄養指導のもと、個々の状態に応じて随時対応しています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを実施している。必要に応じて訪問歯科による衛生管理をして頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>入居者様及び家族様と話し合い、布パン、オムツ、リハパンの中からその方に適したものを選び使用しています。又、入居者様の訴えや、排泄周期に合わせてトイレ誘導しています。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事に関しては食材業者に委託しており、予防に心がけるとともに、おやつ等により排便を促す食材を利用している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>個々の希望を優先に対応しているが、判断できない利用者様に関しては、声かけしながら本人の状態確認し、気分良く入浴できるように努力している。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個人個人の生活リズムを尊重している。</p>		

47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬品については変更時あるいは、疑問等がある場合は、随時薬剤師、看護師に確認している。又、副作用、用法、用量についても指導・指示を仰いでいる。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>書道、音楽会、外食、外出など色んな事に参加して頂きながら、その人自身の楽しみが見つけられる様支援しています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>希望にはできるだけ柔軟に対応している。甘い物が食べたいという思いがあれば近くのお店に出掛け、本人様の思いを見過ごさないように心がけています。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>可能な限り本人様に管理して頂き、買い物等もして頂いています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>可能な限り、本人様の希望に添えるよう支援させて頂いています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>お正月、ひな祭り、クリスマス等季節感が採りれやすい飾りつけをしています。又、冬場は乾燥を防ぐ為、加湿器で調整をとり、夏場は冷風が巡回するように扇風機と併用して温度調節をしている。</p>		

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間内では、御自分の席が決まっており、その場所が一番落ち着いて過ごせる場所になっています。TVを見たりスタッフと話したりできるスペースもあり、自由に過ごされています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に、本人様の馴染みの物等についてはご持参して頂き、入居後の随時ご相談しながら、本人様の意向に添えるように対応させて頂いています。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>移動の動線について注意して、模様替え、家具の配置等に配慮しています。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができてきている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない